



4月～6月の新着本リスト
こちらで見られます！

高高図書館



フェア



〇ブラインドブック

表紙も、タイトルも、著者も、内容もわからない…

未知の本と出会ってみませんか？

6月21日(水)～7月5日(水)までの期間、ブラインドブックを借りると
雑誌付録プレゼントに応募できます！

賞品はニュータイプの付録が中心ですが、保冷ポーチ付きトートやハンドタオルなどもあります。

図書館に現物を展示しますのでチェックしてください。



〇七夕飾り 図書館入口に笹飾りを設置しました。みなさんの願いを短冊に書いてください！

今年度着任された先生の推し本！

米澤 育夫 先生 (公民)

『平成三十年 上・下』 堺屋太一 著 (朝日文庫)

1997～98年に朝日新聞に連載されていたものです。堺屋太一氏(1935年 - 2019年)は官僚時代の経験やライターとなってからの分析力を駆使し、二十年後の日本の姿を色々な気持ちを込めながら予測し、諸問題への対応策(改革案)も提示してみせた。いま、令和5年(2023年)、未来のリーダーたる高生は堺屋氏のように令和25年(2043年)の日本の姿をはたして予測できるのだろうか。知識や分析力・探究力そして対応策を考え始めるきっかけとして、是非高校在学中に読んでもらいたい一冊です。

高橋 瑛人 先生 (地理)

『時を刻む湖 7万枚の地層に挑んだ科学者たち』

中川毅 著(岩波書店)

学術論文が執筆され、それが広く受け入れられるようになるまでには、多くの科学者たちの苦悩と情熱に満ちたドラマが隠されています。国境を越えた友情あり、ライバルとの戦いあり、様々な障壁を乗り越えてついに新知見が世に受け入れられるようになるのです。ドラマに溢れた知識創出の最前線へと思いを馳せてみませんか。

砂川 智哉 先生 (保健体育)

『ハイキュー!!』 古館春一 著 (集英社)

バレーボールは一瞬しかボールに触らないスポーツです。その一瞬の中にある様々な駆け引き、心情を事細かに表面化し、バレーボールの魅力を最大限に引き出した作品です。バレーボールが詳しくない人でもいつの間にか登場人物に感情移入することができます。

六本木 恵 先生 (国語)

『ことばの発達謎を解く』 今井むつみ 著

(ちくまプリマー新書)

本書では、子どもが言語を獲得していく過程が、認知科学の視点から考察されています。言語の獲得によって私たちは抽象的な思考が可能になるのであり、言語は科学的な思考の基盤なのである。私たちの世界を広くも豊かにもしてくれる言語の意義深さを、改めて考えさせてくれる本です。

紹介いただいた本は、図書館で購入予定です。

『ハイキュー!!』は、巻数も多いため検討します！